

- Momohara, A. 1997. Cenozoic history of evergreen broad-leaved forest in Japan. *Natural History Research, Special Issue 4*: 141-156.
- 中村 純. 1965. 高知県低地部における晩氷期以降の植生変遷. *第四紀研究 4*: 200-207.
- 中村 純. 1973. 花粉化石からみた日本の後期洪積世. *第四紀研究 12*: 29-37.
- 中村 純・甲藤次郎. 1953. 花粉分析と第4紀(2)室戸半島の海岸段丘堆積物(洪積層)について. *植物生態学会報 3*: 108-110.
- 中村 純・満塩博美・黒田登美雄・吉川 治. 1972. 花粉層序学的研究, その1 高知県の第四系. *高知大学学術研究報告・自然科学 21(5)*: 87-113.
- 中村 純・山中三男. 1992. 南四国における第四紀の植生変遷. *第四紀研究 31*: 389-397.
- 佐藤裕司. 1995. イオウ分別化学抽出と珪藻分析による古環境解析 兵庫県気比低地のコア堆積物を例に. *第四紀研究 34*: 101-106.
- 佐藤裕司・加藤茂弘・井上史章・兵頭政幸. 1999. 兵庫県, 播磨平野東部で発見された酸素同位体ステージ7.3の海進堆積物. *第四紀研究 38*: 401-410.
- Sato, H., Kumano, S., Maeda, Y., Nakamura, T. & Matsuda, I. 1998. The Holocene development of Kushu Lake on Rebun Island in Hokkaido, Japan. *Paleolimnology 20*: 57-69.
- 須鎗和巳・阿古島功・栗岡紀子. 1971. 室戸地域海岸段丘の再検討(第1報). *徳島大学教養部紀要(自然科学) 4*: 19-34, 2 pls.
- 須鎗和巳・阿古島功. 1972. 「段丘礫の赤色風化殻の厚さ」を指標とした室戸・紀伊両半島の海岸段丘面の対比. *徳島大学学芸紀要(社会科学) 20*: 29-41.
- 田中眞吾. 1989a. 加古川市付近の地形と地質. 「加古川市史第1巻」(加古川市史編さん専門委員会編), 1-102.
- 田中眞吾. 1989b. 兵庫県「いなみの」台地の地形区分と日射量変動曲線. *地形 10*: 135-146.
- 田中眞吾. 1992. いなみの台地の地形とミランコヴィッチサイクル. 「地球環境変動とミランコヴィッチ・サイクル」(安成哲三・柏谷健二編), 93-111. 古今書院, 東京.
- 田中眞吾・後藤博弥. 1996. 加古川市の地形・地質. 「加古川市史第4巻」(加古川市史編さん専門委員会編), 1-50.
- 田中眞吾・大矢真也. 1996. 室戸の海成段丘の地形調査. ミランコヴィッチ理論に基づく海成段丘の検討 室戸岬を例にして. 平成5年-平成7年度科学研究費補助金(一般研究B)研究成果報告書(代表松下まり子), 3-15.
- 東木龍七. 1929. 河岸段丘の非対称的配置とその成因 五. *地理学評論 5*: 777-789.
- 外山秀一. 1982. 大淀川下流域における古環境の復原. *立命館文学 No. 446-447*: 190-219.
- 山中三男・伊藤由美子・石川慎吾. 1992. 高知平野の岡豊低湿地完新世堆積物の花粉分析. *日本生態学会誌 42*: 21-30.
- 吉川周作・三田村宗樹. 1999. 大阪平野第四系層序と深海底の酸素同位体比層序との対比. *地質学雑誌 105*: 332-340.
- 吉川虎雄・貝塚爽平・太田陽子. 1964. 土佐湾北東岸の海岸段丘と地殻変動. *地理学評論 37*: 627-648.

(2001年5月10日受理)

書評: 日本電子顕微鏡学会関東支部編. 2000. 走査電子顕微鏡. xxvi + 447 pp. ISBN 4-320-07148-4. 共立出版, 東京. 本体価格 12,000 円.

本書は, 走査電子顕微鏡についての最新の知識と技法を網羅的に紹介することを目的として編纂されたものである。そのため執筆者は60名以上に及んでおり, 取りあつかわれている材料も多岐に渡っている。

構成は, 第1章 走査電子顕微鏡の原理と構成, 第2章 像の形成, 第3章 走査電子顕微鏡の操作・像表示・記録, 第4章 走査電子顕微鏡の多機能化と関連技術, 第5章 生物学への応用, 第6章 材料科学への応用の6章からなる。すなわち第1章から第4章において走査電子顕微鏡の原理と操作を記述し, 第5章と第6章で観察する対象ごとに固定法やクリーニングなどの技法を紹介している。

第1章から第4章では, 多くの図と観察実例を表示して, 走査電子顕微鏡の基本的な原理と基礎的な操作を, 初心者にも分かるように詳細に解説している。

第5章 生物学への応用では, 最初に「生物試料の基本処理法」と「種々の試料技術」として, 基本的な行程の記述

があり, その後に試料別の技法が紹介される。ここで対象とされているのは, 動物組織と, 培養細胞, 胚・胎仔, 硬組織, 寄生虫, 昆虫, 植物, 真菌, 細菌, ウィルス, 食品, 化石(恐竜の骨細胞の観察)である。植物の項は, 器官・組織表面の一般的観察法と, レプリカSEM法による表面観察法, 花粉の観察法, 植物組織内の観察法に分けられている。またこの章では, 生試料の観察法と, 低加速電圧走査電子顕微鏡法やクライオSEMなどの特殊な観察法も紹介される。

第6章 材料科学への応用では, 一般的な技術解説のあと, 金属材料と, セラミックス, 炭素材料, 半導体材料, 高分子材料, 磁性材料, 複合材料が扱われており, 木材はこの高分子材料の項で扱われている。

本書には, 植物に関する記述はかならずしも多くないが, 人類までも含めた第四紀の環境史を解析するうえでは, 今後, 参考となる技法が見いだせるであろう。

(能城修一)